

## 福井県知事インタビュー



杉本 達治 知事

昭和61年3月東京大学法学部卒業、同年4月自治省入省、  
平成13年1月総務大臣秘書官、平成16年7月福井県総務部長、  
平成22年7月総務省自治税務局市町村税課長、平成25年7月福井県副知事、  
平成28年6月消防庁国民保護・防災部長、  
平成30年7月総務省自治行政局公務員部長、同年11月総務省退官、  
平成31年4月福井県知事、現在2期目

本日は、北陸新幹線の敦賀延伸で注目を集めている福井県の杉本知事のインタビューで福井県東京事務所をご訪問し、福井県の観光政策、スノースポーツの振興などについてご意見をお伺いしました。

### 岩尾専務)

お久しぶりです。知事にお会いするのは、知事が2018年に総務省の公務員部長をされていた日以来ですから、6年ぶりくらいですね。ところで、知事はスキーはされますか？

### 杉本知事)

自治省に入省して最初の赴任地は長野県でした。スキーブームの始まる直前です。多くのスキー場に行きました。福井県でも、家族連れで勝山の雁が原スキー場によく行きました。雪不足で今は閉鎖されましたが、県民はここでスキーを覚えるというくらい皆様に親しまれたスキー場でした。恐竜博物館のすぐ近くです。

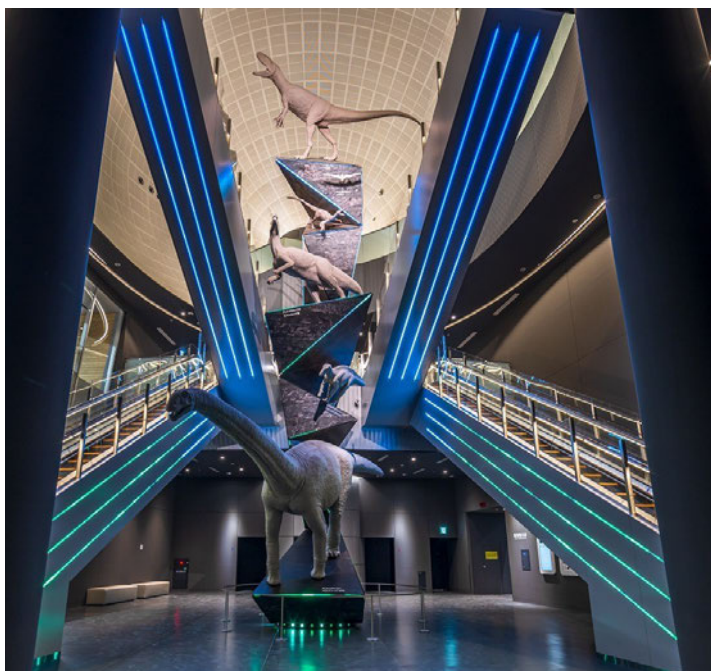


## 岩尾専務)

先月、スキージャム勝山の取材で福井県を訪れました。福井駅、新幹線開通でとても綺麗になりましたね。自治省に入省して最初の赴任地が福井でした。本当に久しぶりの訪問でしたが、多くの恐竜が出迎えてくれました。スキージャム勝山の帰りに恐竜博物館にも立ち寄りましたが、素晴らしい施設ですね。県と恐竜の関係についてお聞かせください。

## 杉本知事)

1982年に勝山市で古代のワニの化石が発見されたのがきっかけです。恐竜の化石が眠っている可能性が高いということで1988年から発掘が開始され、多くの化石が見つかりました。日本で一番多いと承知しています。フクイラプトルをはじめ、「福井」の学名が付いた新種の恐竜も6種発掘されています。恐竜博物館は昨年リニューアルをし、延べ床面積は1.5倍の規模になりました。世界三大恐竜博物館の一つと自負しています。多くの恐竜を復元して展示するだけでなく、館内で化石を石から取り出すクリーニングや骨の組み上げなど各種の研究体験ができるようになりました。冬場は野外の発掘現場の見学や体験ができなため来場者が減っていましたが、これにより昨年度はかなり増えました。「恐竜は福井」を前面に打ち出し、観光客の誘致に努めています。福井駅からの道中に車内でいろいろな仮想体験ができるXRバスや、恐竜バス、恐竜列車、恐竜ホテル等、恐竜で攻めていきます。



福井県立恐竜博物館  
シンボルモニュメント「恐竜の塔」



今年6月から運行開始した車内で  
仮想体験ができるXRバス「ワウライド」

## 岩尾専務)

あまり聞きなれませんが、恐竜ホテルとは何でしょうか。



## 杉本知事)

ホテルや旅館と提携し、例えば客室を恐竜の壁紙やモニュメントを飾るなど改装していただき、それを恐竜ホテルとして県が助成する仕組みです。恐竜ルームに泊まれば恐竜グッズももらえます。勝山にある恐竜博物館まで行けない方にも福井の恐竜を味わっていただきたいということです。事業者にお伺いすると、恐竜ルームは宿泊料が高くて人気があって早くに予約が埋まっていくようです。



県が改修を支援した恐竜ルームの一例  
ペットと泊まれる宿やサイクリストに優しい宿などへの改修も支援している

## 岩尾専務)

福井の観光についてお聞かせください。

## 杉本知事)

本年3月の北陸新幹線の敦賀延伸に向け観光資源の磨き上げをしてきました。恐竜博物館のほかにも、東尋坊や大本山永平寺など本県を代表する観光地では施設のリニューアルなど受入環境の整備を進めました。企業誘致補助の枠組みを使ったホテルの誘致や、旅館や民宿の客室のグレードアップ、トイレや浴室の改善への補助制度の新設など、いろいろな形で観光誘客に力を入れてきました。

企業誘致に関して、従来は工場の誘致に力を入れていました。ただ、本県の有効求人倍率は1.92（令和6年5月）で、2位の島根県の1.67を大幅に上回っており、ずっと人手不足の状態が続いています。そのため、雇用は少なくとも給料は高い、休みが取れる、このような職場を増やしたい、そういった思いで取り組んできました。

「食」については、福井県は海の幸、山の幸に恵まれています。嶺南地域の海の宿などは食事が素晴らしいです。けれども、古い宿が多いため客室やトイレを良くできないか、そうすれば多くの宿泊客を呼べるのではないかという気持ちで補助制度を作りました。「食」には自信がありますので、いわゆる「オーベルジュ」型を目指してゆくということです。施設が綺麗になると営業にも力が入るようで、単価を上げてグレードアップした部屋から埋まってゆくようです。

## 岩尾専務）

---

かつては、工場誘致のために 各自治体が補助金の交付、税の減免、挙句の果てには土地の無償提供までして競い合っていました。福井県では、観光立県を目指してゆくということですね。

## 杉本知事）

---

宿泊は地元に資金が落ちます。経済効果が大きいです。

「食」のみならず福井には多くの伝統工芸があります。丹南地域には、越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前焼、越前箆笥、この五つの伝統工芸の産地が半径10キロメートルの中にあります。いずれも数百年の歴史を持っています。越前和紙は大河ドラマで話題の紫式部が越前にいた頃からありました。鯖江の眼鏡も有名です。職人の方に意識を少し変えていただいて、お客さんの方を向いて仕事をしていただく、体験型の産業観光を育ててゆきたいと考えています。インバウンドの方にも喜んでいただけたらと思います。



## 岩尾専務）

---

ところで、インバウンドの状況はいかがでしょう。

## 杉本知事）

---

残念ながらまだ多くはありません。ただ、新幹線の開通後に本県に来られる外国人観光客の方は約2倍に増えています。対外発信力という点では、県単独ではなく、北陸三県、JRなどとの連携を強めていきます。また、大阪観光局と連携した取り組みも進めています。



## 岩尾専務)

北陸三県に限らず、北陸新幹線ルートということで、北信越という枠組みもあるかもしれません。長野のスキー場にはオーストラリアからのスキーヤーが長期滞在しますが、週末には日本人スキーヤーを入りたいので、富山や金沢の観光地を紹介し、そちらに行ってもらおうようにしているスキー場もあります。彼らには2、3時間の旅は苦にならないようです。相手に合わせたいろいろな広域的な取り組みができるかもしれません。また、私は20数年前の北京勤務以来中国に関心を持ち続けていますが、彼らは「詫び寂び」ではなく大きいものや派手なものが好きですね。日本人は歴史的な価値があるかどうかで判断しますが、彼らはあまりこだわらないように感じています。ですから、勝山の越前大仏も、新しくて綺麗なようですから、「日本一大きい大仏」を売りにすれば案外インバウンド向け観光の目玉になるかもしれません。中国や東南アジアの観光エージェントに意見を聞いてみる価値はあると思います。恐竜は中国人には間違いなく受けます。福井駅等で撮影しSNS等で発信してもらえば口コミで広がってゆくのではないのでしょうか。

最後になりますが、福井県の冬の観光、特にスノースポーツに関して伺います。

## 杉本知事)

冬の観光では越前がにが有名です。期間は11月6日から3月20日です。年内は多くのお客さんで賑わいますが年が明けると客足は落ち着きます。その点、スノースポーツは最盛期の平成7年の100万人からは減って昨シーズンは20万人くらいですが、冬季では最大の入込があります。県内に5つあるスキー場は冬の観光の目玉ですから、電気料や燃料価格高騰にかかる支援や、コロナ禍においてはリフト券半額割引へ支援を行うなど安定した運営を応援しています。今後はインバウンドのお客様の来県も期待したいです。



西日本最大級のゲレンデを持つスキージャンプ勝山など県内には5つのスキー場がある

福井県はスキー県ではないですからスキー場だけでインバウンドを呼び込むことはできないでしょう。ただ、雪を見たこともないアジアのインバウンドにとっては、ニセコや白馬のようなスキー場に行く必要はありません。どこでもよいはずです。一連の周遊コースの一つのアイテムとしてスキー場をどのように組み込むのか、多言語での受入体制が出来ているかどうかの方が重要だと思います。古くからの観光地その他、恐竜、温泉、食、伝統工芸等、福井には素晴らしい観光資源がたくさんありますので、是非、スキー場とセットにして広域連携で上手に売り出してください。本日はお忙しい中ありがとうございました。